

# 第3回博多港カーボンニュートラルポート（CNP）形成推進協議会

## 議事概要

### 1. 日 時

令和5年1月24日（火）14時00分から15時15分まで

### 2. 場 所

博多港センタービル2階会議室

### 3. 出席者

岩谷産業株式会社、ENEOS 株式会社、九州電力株式会社、西部ガス株式会社、  
豊田通商株式会社、日本郵船株式会社、博多港運協会、一般社団法人博多港振興協会、  
福岡県倉庫協会、福岡地区旅客船協会、九州運輸局、  
九州地方整備局博多港湾・空港整備事務所、福岡市環境局、福岡市港湾空港局（事務局）  
※博多港ふ頭株式会社、公益社団法人福岡県トラック協会は欠席

### 4. 議事概要

#### （1）協議会規約の変更について

事務局より港湾法改正に伴う規約変更（案）について説明。

#### （2）CNP に関する最近の動向について

九州地方整備局より、国における脱炭素化の取り組みとして、港湾法の一部改正等について説明。

#### （3）博多港 CNP 形成計画（原案）について

事務局より博多港 CNP 形成計画の原案について説明を行い、構成員より主に以下の意見が示された。

- ・脱炭素化に向けた具体的な検討には至っていないが、カーボンニュートラルの取り組みが今後加速し、重要性がより増していくことは認識しており、どのような取り組みができるのか考えていかなければならない。
- ・形成計画の目的には、選ばれる港を目指すというような、グローバルな競争力強化という趣旨も加えてよいのではないか。
- ・カーボンニュートラルポートとして国際競争力を高めていくことは、周辺の物流事業者などにもプラスになると考える。

- ・他港で電気推進のタグボートが1月に就航しており、このようなタグボートを増やしていくのも博多港にとって有益ではないか。また、他港で1月にLNG燃料フェリーが就航したが、これも安定的なLNGの供給体制があるという点が大きい。一方で、LNGのバンカリングにかかる時間をふまえると、短距離で短時間の停泊をする船では厳しいと考える。
- ・中部水処理センターにおける下水汚泥由来の水素の活用について、博多港での水素利用とも連携できれば、地産地消に近い形で水素利用モデルが作れるのではないか。一方で、FC（燃料電池）機器を扱うユーザー側にも、経済的に優遇されるような仕組みがなければ具体的な導入を進めていくのは難しいと考える。こうした背景から、カーボンニュートラルポートの形成に向けては官民の連携が必須と考える。

この他、構成員より、各社・各業界の脱炭素化に向けた取組み状況等について紹介があった。

#### （４）今後の進め方について

事務局より、博多港CNP形成計画策定までの予定等について説明。

以上